

## 令和2年度第2回東青地区教科用図書採択協議会議事録

### 【令和3年度使用中学校用教科用図書】

令和3年度使用中学校用教科用図書16種について、研究調査した結果を報告する。

### ○国語

#### 2番「東書」について

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう、読むことの教材のあとに語彙力を高めるコーナー「広がる言葉」を設けている。言語活動を支える基礎的・基本的な事項を身に付け、正確に読み取ったり、深く考えたりする力を育成することが期待できる。

#### 15番「三省堂」について

- ・ 意欲的に学習できるよう、巻末に3学年共通の「学習用語辞典」を設け、学習に役立つ用語がまとめられている。言葉の特徴や使い方に関する知識・技能を習得することができる。

#### 17番「教出」について

- ・ 巻末に「学びのチャレンジ」を設け、様々な資料を活用し、思考力・判断力・表現力を習得する学習に取り組むことができる。全国学力・学習状況調査の結果から、東青地区生徒の課題として、目的に合った適切な情報を選択して、自分の考えを書いて表現する力の育成が挙げられる。様々な資料の読み取り方や読み取ったことをもとに自分の考えをまとめるなどの学習経験の蓄積や書く力の向上が期待できる。
- ・ 身に付けた学習内容を活用できるよう、各学年に現代的な諸課題に関する単元を設けている。県学習状況調査の結果から、東青地区生徒の課題として、叙述をもとに読み取る力の育成が挙げられる。現代的な諸課題について、課題意識を持って自分の意見をまとめたり、学習したことを未来にどう生かすかを考えたりする学習を通して、叙述をもとに読み取ったことを活用する力の育成が期待できる内容となっている。
- ・ QRコードから接続できるデジタルコンテンツに、身に付けた学習内容を広げるための資料が掲載されている。今後、一人一台パソコンが配備されると、ICTを活用した学習を積極的に取り入れることができ、自ら学びに向かう力の育成につながる。

#### 38番「光村」について

- ・ 各学年に音読教材を含めた複数の古典作品を掲載している。我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う国語科の目標に迫る内容構成となっている。
- ・ 本県ゆかりの作家の作品を2年生で2作品、掲載しており、学習内容に興味・関心を持てる。

### 【質疑応答】

Q1 教出以外の各者に、活用力の育成に関する工夫はあるか。

A1 各者とも活用力を育成するための工夫がある。特徴的な単元を設けているのが教出であった。

Q2 三省堂の「学習用語辞典」は、自主的に辞書を引く学習につながるか。

A2 生徒の興味を引く題名と、3学年共通して掲載されているところは、今後の辞書を活用した学習につながるものと考えている。

Q3 教出のQRコードに関して、補足することはないか。

A3 動画だけでなく、ワークシート、話し合い活動の実際の流れなど、様々なデジタルコンテンツが掲

載されている。

Q 4 複数の非連続型テキストを使った教材はあるか。

A 4 教出では、グラフだけでなく、図書館の配置図や表など3年間で複数の非連続型テキストを活用した学習を行えるようになっている。

## 〇書写

### 2番「東書」について

- ・身に付けた力を活用できるよう、「生活に広げよう」で、具体的な学習活動例を取り上げている。学習指導要領では、社会生活で生きて働く言葉の力の育成を重視しており、全ての学年末で3ページにわたって、「生活に広げよう」という教材を設けることで、この力の育成を図っている。

### 15番「三省堂」について

- ・学習したことを深められるよう、各教材の最後に、振り返りを記述する欄を設けている。生徒が主体的に学び、学びを深めるためには、自己の学習活動を振り返って次につなげることが重要であり、生徒が記述することによって、自分の成長や課題を自覚し、次への学習や生活への意欲を持つことができるよう工夫している。

### 17番「教出」について

- ・情報活用力を身に付けられるよう、巻末に、目的に合った情報の整理の仕方の例を掲載している。学習指導要領では、様々な媒体から必要な情報を選び、わかりやすく整理し、表現することを求めている。県学習状況調査の東青地区生徒の状況からも、力を入れていくべき学習活動である。
- ・各教科の学習で活用できるよう、縦書きと横書きのノートの書き方例と、朱書きによる解説を掲載している。学習指導要領には、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要であると示されている。また、今後、生徒に一人一台パソコンが配備され、AI型ドリルの活用や考え方の比較・整理など、教科の学びを深めていくために活用された場合、必要な情報を整理しながらまとめ、自分の学びに生かしていくことが重要となる。東青地区生徒の課題である複数の情報を活用しながら、自分の考えを表現する力を育成するために、重要な言語活動である。
- ・意欲的に課題解決に取り組めるよう、国語科と関連を図った教材を掲載している。生徒が国語の教科書で学習した馴染みのある教材を学習することで、意欲的に課題解決に向かうことにつながる。
- ・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう、全ての毛筆教材に、QRコードから視聴できるデジタルコンテンツを設けている。補充教材を含めた毛筆教材の動画数は、最も多い。

### 38番「光村」について

- ・学習したことを深められるよう、別冊の硬筆練習帳「書写ブック」には、毛筆での学習を生かして書き込む欄を豊富に設け、硬筆で繰り返し練習する場を設定している。毛筆の指導においては、硬筆による書写の能力のもと礎を養うことが求められており、毛筆で身に付けた書く力を、硬筆で繰り返し書くことによって、文字を効果的に書く力の定着を図ることができる。
- ・学習内容が理解できるよう、全教材で、書体を使い分けて表記している。全教材名をユニバーサルデザイン書体、学習内容に関わる文字をオリジナルの教科書体と使い分けることで、読みやすさと見やすさに配慮しており、学習内容の理解が図られるように工夫している。

## 【質疑応答】

Q 1 毛筆から硬筆に発展させるための教出の工夫は何か。

A1 教科書のサイズが大きくなり、書き込む活動を豊富に取り入れられるようになった。毛筆の学習を生かして、硬筆のドリル的学習として活用できる教科書である。

## ○社会（歴史的分野）

### 2番「東書」について

- ・ 思考力を高められるよう、大単元末に意見を整理して学習を振り返る「まとめの活動」を設けている。県学習状況調査において、思考力と表現力の育成が東青地区生徒の課題として挙げられている。「まとめの活動」では、学んだ知識を視覚的に整理するための図が掲載されており、活用することで、思考の道筋をつくり、学習内容をまとめることができるよう工夫されている。
- ・ 各時代の特色について理解を深めることができるよう、大単元末に「資料から発見」のページを設けている。時代の特色を表す資料を掲載し、読み取ったり考えたりすることで、その時代や文化への理解を深め、資料を読み取る力を付けられるようにしている。
- ・ 教科書のQRコードからデジタルコンテンツに接続し、動画の視聴やシミュレーションを通して、より具体的に学習内容の理解を深めることができる。

### 17番「教出」について

- ・ 学習内容を理解できるよう、大単元末に「学習のまとめと表現」のページを設け、年表や発展課題を掲載している。穴埋め式の年表で用語を整理し、発展課題に取り組みさせることで、学習した内容をさらに深められるように工夫している。
- ・ 調べ学習がしやすいよう、巻末に年表を見開き5ページで掲載している。世界史についても、詳細に記載された年表となっている。

### 46番「帝国」について

- ・ 意欲的に学習に取り組めるよう、大単元の冒頭に、各時代の生活の様子をイラストで表現した「タイムトラベル」のコーナーを設けている。見開き2ページで各時代の生活の様子が分かるイラストが掲載されており、学習内容への興味を高めるとともに、複数の発問が付されており、資料を読み取る力も身に付けられるよう構成されている。

### 81番「山川」について

- ・ 基礎的・基本的な技能を身に付けられるよう、資料に発問を付け、読み取る視点を示している。社会科の学習で欠かせない技能である資料の読み取りについて、資料ごとに発問から学習内容を追究することにより、身に付けられるよう構成されている。

### 116番「日文」について

- ・ 学習したことを深められるよう、章末に具体的な活動事例を提示した「アクティビティ」を設けている。「アクティビティ」では、時代の特色をまとめるために、3つのステップを設けた活動事例を示し、段階を踏んで、より深い理解ができるよう構成されている。

### 227番「育鵬社」について

- ・ 見本本がない範囲で研究調査している。

### 229番「学び舎」について

- ・ 見本本がない範囲で研究調査している。

## 【質疑応答】

Q1 QRコードについて、東書と他者との比較はどうか。

A1 各者とも工夫されているが、他教科との関連を持たせたデジタルコンテンツがまとめられているところが東書の特徴である。

Q2 他教科との具体的な関連についてはどうか。

A2 鎌倉時代の「徒然草」を国語科の学習と関連させている。歴史的な事象としてだけでなく、言語文化として関連させて取り上げている。

## ○社会（公民的分野）

### 2番「東書」について

- ・ 本県及び本市においては、若年層の投票率と主権者教育の充実が課題となっている。社会参画意識の高揚を図るページ「18歳へのステップ」が設けられている。
- ・ 県学習状況調査において、資料から情報を読み取る力を育成することが、東青地区生徒の課題として挙げられている。大単元の冒頭に、話し合い活動が設けられており、複数の資料から判断に必要な情報を読み取り、考え、話し合うことで、資料を活用する力や物事を判断する力を身に付けられるようにしている。
- ・ 学習意欲や理解を高められるよう、デジタルコンテンツが設けられている。他教科の学習内容の他、円相場や選挙制度のシミュレーションなど、実感を伴った理解ができるよう工夫されている。

### 17番「教出」について

- ・ 学習したことを深められるよう、経済学習の最後に、現代社会の特色を日本経済の課題として学習できる配置にしている。グローバル化について、現代社会の特色としてだけでなく、日本経済の課題として扱い、ひとつの事象を複数の視点で捉えることができるよう工夫している。

### 46番「帝国」について

- ・ 学習したことを深められるよう、現代的な諸課題について考える「アクティブ公民」のコーナーを掲載している。異なる立場での意見の対立をもとに話し合いを行うことで、根拠のある意見を表現できるよう工夫されている。
- ・ 意欲的に学習に取り組めるよう、各単元の冒頭にイラストを大きく掲載し、思考力を高める問いを設けている。学習の見通しを持たせるとともに、資料を読み取る力を身に付けられるよう構成されている。

### 116番「日文」について

- ・ 学習指導要領では、社会科の学習において、新聞を資料として活用するよう記載されている。学習内容の理解を図るため、新聞記事を資料として掲載し、読み取る力を伸ばせるよう工夫されている。

### 225番「自由社」について

- ・ 経済単元では資料やグラフの大きさ、配色が工夫されており、一目で読み取りがしやすくなっている。社会科の学習では、資料やグラフは社会科学習の理解を促すために、重要である。

### 227番「育鵬社」について

- ・ 見本本がない範囲で研究調査している。

## 【質疑応答】

Q 1 東日本大震災を各者ともどのように扱っているか。

A 1 全ての者で扱っている。東書では、復興に関する内容も取り上げている。

Q 2 持続可能な社会の実現に関する扱いはどうなっているか

A 2 全ての者で取り上げている。東書では、課題達成のための17の目標を表で掲載し、具体的な説明も付されている。

## ○社会（地理的分野）

### 2番「東書」について

- ・ 県学習状況調査において、地図活用の力の育成が東青地区生徒の課題の一つに挙げられている。「スキルアップ」コーナーでは、時差の調べ方をはじめ、地図活用に関する演習を交えながら、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう工夫されている。
- ・ QRコードから、電子地図や動画をはじめとするデジタルコンテンツに接続することができる。地図や地形への興味・関心を高められる。
- ・ 学習したことを深められるよう、「世界の諸地域」の学習において、それぞれの節に「資料から発見！」コーナーを設定している。地域に関連した特徴的な複数の資料を取り上げ、読み取ったり考えたりすることで、その地域の理解を深め、資料を読み取る力を付けられるようにしている。

### 17番「教出」について

- ・ 発展的に学べるよう、各単元の終わりに「世界の諸地域」「日本の諸地域」について、「地球から世界を考えよう」「現代日本の課題を考えよう」のコーナーを設け、地域的課題、現代的な諸課題を理解し、追究できるようにしている。

### 46番「帝国」について

- ・ 日本の諸地域の学習について、地方を概観できる写真やイラストを掲載し、興味・関心を高め、学習の見通しを持たせられるようにしている。地域の特色を大まかに捉えてから、「自然環境」や「産業」といった主題を追究することで、地域をより理解できるよう構成されている。
- ・ 持続可能な社会を実現するための参考となる取組を紹介した、「防災」「環境」「共生」に関するコラムを掲載し、現代的な諸課題について考えられるようにしている。

### 116番「日文」について

- ・ 基礎的・基本的な事項を身に付けられるよう、「スキルアップ」のコーナーを設け、複数の資料を比較し読み取る際に、読み取るための視点を持つことで、理解を深めることができるようにしている。地理的技能を「統計資料を活用する」「地図を活用する」「写真を活用する」など、6つの種類に整理して、詳しく解説している。

## 【質疑応答】

Q 1 QRコードに関する内容について、各者の内容はどうか。

A 1 各者とも工夫されているが、東書は他教科との関連や提示されたデジタルコンテンツがそのまま問題として活用できる内容になっているところが特徴である。

Q 2 青森市についての資料の扱いはどうか。

A 2 ねぶた祭などは、各者で取り上げている。

## ○地図

### 2番「東書」について

- ・ 巻頭に現代的な諸課題を捉えるための特集ページを設け、国連が2030年までの目標として掲げた「持続可能な開発目標」を中心に、現代的な諸課題を的確に捉え、解決に主体的に取り組む態度を身に付けられるようにしている。

### 46番「帝国」について

- ・ 県学習状況調査において、地図活用の力の育成が東青地区生徒の課題の一つに挙げられている。正距方位図法で描かれた地図や標準時がわかる地図を大きく掲載している他、目的に応じて地図の種類を掲載している。正距方位図法では、主な都市の距離と方位を比較するために、世界6都市を中心とした正距方位図法を掲載し、各都市から世界を見渡すことができるようにしている。
- ・ 学習意欲を高められるよう、インターネットを使った学習ができるQRコードが掲載されている。QRコードから衛星画像などの資料や関連動画に接続することができる。
- ・ 「地図活用」のコーナーを設け、地図と地図、写真と地図など、複数の資料を比較したり、関係付けたりする演習を通して、思考力・判断力を身に付けることができるようにしている。

## ○数学

### 2番「東書」について

- ・ 思考力を高められるよう、「深い学びのページ」では問題を振り返って条件を変えるなど、新たに考察できる問題を設けている。全国学力・学習状況調査の結果から、東青地区生徒の課題の一つに、付加された条件の下で、新たな事柄を見出し、説明する力が挙げられる。条件を変えて発展的に考える問題について、学習の積み重ねが可能な教材が掲載されており、思考力の育成に配慮している。
- ・ 章末の「活用の問題」に、知識・技能を活用できる記述式の問題を多く扱っている。思考力、判断力、表現力を育成することが期待できる。
- ・ 学習内容に関連したデジタルコンテンツが各領域に設けられている。画像を見るだけでなく、自分で操作することもでき、学習の理解を深めることができる。

### 4番「大日本」について

- ・ 数学の楽しさや生活に生かされていることを知ることができるよう、「MATHFUL」コーナーに身の回りにある数学の事柄に関連した質問や読み物資料を掲載している。生活や社会と数学との関わりを実感させることで、学習意欲を高められるよう工夫している。

### 11番「学図」について

- ・ 学んだことを社会に活用できるよう、巻末の「今の自分を知ろう」のページでは、現代的な諸課題として、SDGs 17の目標のマークを提示し、自分たちにできないかを考えるきっかけとしている。

### 17番「教出」について

- ・ 巻末の「学びのマップ」に小学校や前学年の学習内容を領域ごとに一覧にして掲載している。生徒が自分の学習について、小学校や前学年の学習内容とのつながりを意識し、振り返ることができる。

### 61番「啓林館」について

- ・ 学習意欲を高められるよう、他教科の学習内容と関連付けた題材を多く取り上げている。他教科にお

いても、数学科の学びが活かされ、日常的な場面で活用することにつながる。

- ・ 「みんなで学ぼう編」と「自分から学ぼう編」の2部構成にし、授業で一斉に取り組む部分と、興味・関心や習熟に応じて自由に取り組める部分とに区別することによって、生徒が主体的に学習できるよう配慮している。

#### 104番「数研」について

- ・ 主体的に学習に取り組めるよう、問題解決場面でキャラクターの対話をもとにして、学習の見通しを持たせ、解決に向かう流れを示している。学習内容を理解し、主体的に学習できるよう配慮している。

#### 116番「日文」について

- ・ 証明等の学習において、1年生では基礎的・基本的な知識・技能についての穴埋め問題、2年生では証明の根拠に焦点化した問題、3年生では身に付けた学習内容を活用できる問題を掲載し、思考力・判断力・表現力を段階的に高められるよう工夫している。

#### 【質疑応答】

Q1 東書では、ページ数が減ったが、内容的にどんな配慮がされているのか。

A1 デジタルコンテンツと巻末に練習問題が用意されている。個々の習熟度に合わせて問題に取り組めるようになっている。

Q2 啓林館では、発展的な学習が実感を伴うような内容の工夫はどのような点であるか。

A2 実生活と問題がどのように関連しているかを具体的に掲載していることが特徴である。

#### ○理科

#### 2番「東書」について

- ・ 進んで問題解決に取り組めるよう、理科の学習内容と他教科の関連する内容をQRコードから接続できるデジタルコンテンツに示している。理科で学習した内容と他教科での学習を結び付けることで、より広く事象に対する理解を深めることができる。

#### 4番「大日本」について

- ・ 学んだことを活用できるよう、様々な長文資料を読解したり、図表を正確に解釈したりすることで、問題解決の力を高める「読解力問題」が各単元末に設けられている。

#### 11番「学図」について

- ・ 学習指導要領では、理科の目標に「理科の見方、考え方を働かせ」という部分が付記され、問題解決に迫るための「理科の見方、考え方」が示された。また、県学習状況調査の結果から、予想を検証する方法を考え出す力、複数の実験結果から原理・原則を見出す力等が、東青地区生徒の今後伸ばしていくべきところである。小学校理科で培った「理科の見方、考え方」をもとに、生徒が「理科の見方、考え方を働かせ」学習に取り組めるよう、ページ上部に、題材ごとに必要とされる理科の考え方が明記されている。
- ・ 学習意欲を高められるよう、弘前城の曳屋の写真やおいらせ町の地層など本県ゆかりの自然を最も多く掲載している。
- ・ 学習効果を高められるよう、単元に関連する情報など、ICTを活用したこれからの理科の授業づくりに役立つデジタルコンテンツが豊富に掲載されている。

## 17番「教出」について

- ・ 学び方を身に付けられるよう、巻頭に探究の進め方について例をもとに掲載している。理科の学習において探究の過程を身に付けることは必要不可欠であり、発達段階に応じた指導が必要である。各学年の巻頭において、探究活動の具体例を示し、課題解決までの段階を取り上げている。
- ・ 学習内容を深められるよう、ページ下に「まなびリンク」を掲載し、デジタルコンテンツを閲覧できる工夫をしている。巻頭に掲載されたURLまたはQRコードから、関連する大学や研究施設、博物館や関連する企業作成のデジタルコンテンツを閲覧することができる。

## 61番「啓林館」について

- ・ 学び方を身に付けられるよう、巻末に、観察・実験の結果と考察について、区別して記入できる「探Qシート」が付いている。「探Qシート」には、探究の過程に沿って課題解決に向かう流れが示されており、得られた事実である「結果」と、そこから考えられる「考察」を区別して掲載しており、この違いを意識してレポートを作成できるよう、工夫されている。

## ○音楽（一般）

### 17番「教出」について

- ・ 見通しを持って学習を進められるよう、目次に学びのねらいや学習活動を示した「学びのユニット」を掲載している。学習する曲や活動ごとに、学びの「ねらい」、課題解決の手がかりとなるヒント、比較する曲、学びを深めるための曲や活動が一目で分かるよう工夫されている。

### 27番「教芸」について

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう、各学年に発声のポイントを示した「My Voice」や指揮のポイントを示した「指揮をしてみよう」のコーナーを設けている。歌唱表現において必要な発声の仕方や、指揮の振り方についてポイントを示し、体験的・発展的に学習できるよう、全学年に掲載している。例えば、発声をする際の「息の方向」や「響かせ方」について、「頭の上から上に向かって息が出ていくようなイメージで声を出す」や「眉や頬を上げて」などわかりやすく示されている。また、指揮の振り方では、「最後の拍を打ったあとは、体の正面に向かって振り上げるように」や「はずんだ部分は切れ味よく」「なめらかな部分は柔らかく」など具体的に示されている。
- ・ 意欲的に問題を解決できるよう、教材の側注に、教材に関連する動画や音声などの情報や、音楽家のホームページを視聴、閲覧できるQRコードを設定している。武島羽衣作詞、滝廉太郎作曲の「花」では、「四季」という組歌の中の1曲であることから、QRコードから、組歌の中の「花」以外の3曲について、説明文や音声を視聴することができる。
- ・ 1年間で学習したことの振り返りができるよう、巻末に、音色やリズム、強弱などといった「音楽を形づくっている要素」についてまとめて掲載している。1年生では、音色やリズム、強弱などといった「音楽を形づくっている要素」と学習した教材曲や活動、掲載されているページをまとめ、教材曲や活動で何を学んだのかについて振り返ることができるように工夫されている。歌唱の学習において、音楽を形づくっている要素のうち「強弱」に着目して学習した教材曲が、34ページに掲載されている「Let's Search For Tomorrow」であることや、「形式」や「リズム」に着目して学習した教材曲が26ページに掲載されている「浜辺の歌」であることが一目で確認できる。教材曲を通して、音色やリズム、強弱などといった「音楽を形づくっている要素」の働きを聴き取ったり、感じ取ったりして、教材曲で何を学んだのかを振り返ることができるように全学年に掲載している。

## ○音楽（器楽合奏）

### 17番「教出」について

- ・我が国の郷土の音楽に興味・関心を持てるよう、唱歌に親しむ活動を取り上げている。唱歌を歌いながらお囃子をつくる教材では、旋律やリズムなどまとまった楽節「手」について、6種類の「手」を示すことで、様々な組み合わせを試行錯誤しながら、お囃子のリズムなどを創作できるように工夫されている。

### 27番「教芸」について

- ・我が国の伝統的な音楽のよさに触れることができるよう、楽器の演奏法のみならず、楽器が実際に演奏される場面の写真を掲載している。青森県の民謡や郷土芸能である、津軽三味線や津軽じょんから節、お山参詣登山囃子などが写真で紹介されており、生徒が郷土の音楽に興味・関心を持つことができるよう、工夫しています。
- ・学習意欲を高められるよう、教材に関連する動画やホームページを視聴、閲覧できるQRコードを設定している。それぞれの楽器の演奏法のみならず、どのように演奏されているのかなど幅広く学ぶことができるよう工夫されている。
- ・学習したことを活用できるよう、生徒の実態に応じて、段階的に難易度を上げた曲を掲載している。リコーダーの演奏では、①「左手のみで演奏」②「いろいろな奏法で演奏」③「右手と左手で演奏」④「裏の穴を使って演奏」⑤「高い音、♭や♯を使って演奏」という順で、少しずつ難易度を上げた教材曲を掲載している。また、楽器演奏の楽しさを十分に体験しながら学習できるよう、息の吹き込み方による音色の違いなどを比較したり、使う音の数を徐々に増やしていくなど、段階的に難易度を上げた曲を掲載している。

## ○美術

### 9番「開隆堂」について

- ・美術の授業で身に付けたい力や学習のねらいを明確にするために、各題材の「目標」と「学習のポイント」を生徒にわかりやすい言葉で示している。授業のねらいがわかりやすく示され、生徒が目的意識を持って、学習を進めることができるようになっている。
- ・学習したことが深められるよう、1年生で学習した内容を生かして制作できる題材を2・3年生で掲載している。美術科の学習の中で身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を活用して、さらに発展させた作品をつくることで、学習が深まり、つくり出す喜びを味わうことができる内容となっている。

### 38番「光村」について

- ・発想や表現の方法について、生徒の言葉や制作過程を掲載している。表現の学習では、生徒が自ら表現したいという思いや考えを自分の力で実現できたときに、満足感や達成感を味わうことができる。実際の生徒の見方や考え方と、具体的な制作方法を知ることによって、制作の手順を実感し、参考にしながら、主体的に取り組むことができる内容となっている。

### 116番「日文」について

- ・生徒が持続可能な社会の担い手として、学んだことを社会で活用できるよう、美術の学習が実社会で生きていることを、多方面で活躍する職業人のメッセージとして掲載している。2・3年下巻の巻末には、2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智氏からのメッセージを掲載している。
- ・学習内容を深めるための資料として、QRコードから作品や技法の解説などのデジタルコンテンツを視聴できる。作品解説動画では、美術館や建築作品、国宝など、実際の場所の様子や展示風景とともに

に、作品が制作された背景や作者の考え方が臨場感ある動画で示されている。また、パソコンを操作しながら、360° 必要な角度から鑑賞することができる生徒作品が掲載されており、今後、生徒一人一人が傍らに置いたパソコンを見ながら、制作のアイデアや必要な技法を参考にして、表現の学習をすることも期待できる。

- ・ 実際の作品を実感できる原寸大の鑑賞資料を掲載している。原寸大で作品を掲載することにより、実物を手に取って見るかのように作品を鑑賞することができる。

### 【質疑応答】

Q1 青森市では、小学校から版画教育に取り組んでいる。中学校との関連はどうなっているか。

A1 各者とも小学校の版画の経験を活かして学習できる内容となっている。日文では、葛飾北斎の原寸大の鑑賞教材と制作過程が併せて掲載されており、小学校から版画に親しんできた生徒の制作意欲を高める内容となっている。

## ○保健体育

### 2番「東書」について

- ・ 思考力・判断力を高められるよう、日常生活と関連した発問や資料から深く考えさせる学習の場を設定している。身近な生活と関連させ、課題意識が高まるような発問が記載され、資料を参考にしながら、健康に関する考えを伝え合ったり、話し合ったりできるよう構成されている。このような思考力・判断力を高められる授業の流れは、健康に関する課題に対して、科学的な思考と適切な意思決定や行動を選択していくことにつながる。
- ・ 保健体育科の学習においては、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現できるよう、体育と保健を関連させながら授業を行うことが重要である。本県においては、短命県返上を掲げており、東青地区においても肥満傾向児の出現率が高い。日常的な運動と健康を関連付けた資料を豊富に掲載しており、自他の健康を大切にし、健康の保持増進に関する学習に主体に取り組むことにつながっていくことが期待できる。
- ・ 身に付けた知識を活用できるよう、関連した内容を閲覧したり、疑似体験したりできるデジタルコンテンツがある。消費カロリーや交通安全など、生徒一人一人がシミュレーションできるコンテンツが掲載されている。

### 4番「大日本」について

- ・ 身に付けた知識をさらに深め、実生活に活用できるよう、章末資料から記述によって、学習内容を振り返ったり、考えを深めたりする欄を設けている。自他の健康に関すること、プラスチックが生態系に及ぼす問題、年齢、性別、障がいなどの違いをこえて、楽しめるような地域の運動会の企画などについて取り上げている。

### 50番「大修館」について

- ・ 生涯にわたって運動に親しむためには、多様な楽しみ方や関わり方があることを学んでいくことが重要である。口絵や単元のページ等で様々なスポーツの関り方や楽しみ方を紹介している。ゴーグルを使って仮想空間で行う球技、車いすで空気砲を使った球技など、年齢や障がいなどによる身体差を超えて楽しむことができるスポーツを紹介し、様々な視点でスポーツを捉えられるよう工夫している。

### 224番「学研」について

- ・ 進んで問題解決に取り組めるよう、健康状態について情報機器で管理したりするなど情報機器の活用について紹介している。アプリやスマートフォンの機能を活用して、自分の健康状態や運動の記録を

メモし、健康状態を管理できる例を掲載している。

- ・ 意欲的に学習に取り組むことができるよう、単元に関連した著名人や、最前線で活躍している職業人のメッセージを掲載している。2015年ノーベル生理学・医学賞受賞した大村智氏、柔道の創始者である加納治五郎、バドミントン日本代表の映像分析を行っている人などの話を掲載している。

### 【質疑応答】

Q1 がん教育についてどのように扱われているか。

A1 各者とも主に2年生で扱われている。東書でも、早期発見と生存率の関係などがんに対する知識・理解について適切に扱われている。

## ○技術・家庭（技術的分野）

### 2番「東書」について

- ・ 見通しを持って学習を進められるよう、実生活や実社会に役立つ技術について考える過程をわかりやすく表していることです。学習指導要領では、社会、環境及び経済といった複数の側面から技術を評価し、具体的な活用方法を考え出す力が重要とされている。生活や社会における事象を、技術との関わりの視点でとらえ、「社会からの要求」、「安全性」、「環境への負荷」、「経済性」に学習内容を整理して示している。
- ・ 見通しを持って問題解決に取り組めるよう、「問題解決カード」を設け、学習の進め方を示している。

### 6番「教図」について

- ・ 実習に関わる基礎的・基本的な知識・技能について、別冊の「技術ハンドブック」にまとめ、実習しながら各種技能や安全性について確認できるよう工夫されている。実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技術の習得を図ることができる。

### 9番「開隆堂」について

- ・ プログラミングの学習に意欲を持って取り組めるよう、小学校で活用しているプログラミング言語を主に扱い、事例を巻末やデジタルコンテンツに豊富に掲載している。
- ・ 科学的な根拠やしくみの理解のもとに、学習内容を理解・習得できるよう、「実験」や「調べ学習」を掲載している。
- ・ 情報活用能力を高められるよう、イラストや図式を用いて、現代社会の課題でもある情報モラル、情報セキュリティ等について、豊富な内容を分かりやすく掲載している。今後、生徒が一人一台端末を使用する際に、より重要な内容である。

## ○技術・家庭（家庭的分野）

### 2番「東書」について

- ・ 意欲的に学習に取り組めるよう、実物大の写真等を掲載している。毎日の食事で、必要な栄養素をバランス良く摂取するために必要な食品の量を把握できる「手ばかり」や幼児の道具の実物大の写真を掲載し、生徒がイメージを膨らませ、意欲的に学習ができるよう工夫している。
- ・ 学んだことを活用できるよう、調理実習の献立に加えて、関連する献立を紹介している。家庭でも実践できる様々な加熱調理の参考例や「エコクッキング」、「朝食作り」や「弁当作り」など、興味・関心を持ちながら自分たちの生活に生かすことができるよう工夫している。

## 6番「教図」について

- ・ 進んで問題解決に取り組めるよう、実習題材に、発展例や市販品との比較、課題の原因を考えさせるコーナーが掲載されている。調理実習や布を用いた製作のページでは、実習例に発展的な視点を示している。課題を設定するためヒントとなる「私のアレンジ」コーナーや、冷凍食品など市販品と比較させるコーナー、実習でうまくいかなかった原因を考えさせるコーナーなどを設け、気付かせる工夫をしている。

## 9番「開隆堂」について

- ・ 身に付けた知識・技能を活用できるよう、学習のまとめりごとに学習したことを振り返り、自分の言葉でまとめていくことができるよう記述欄と「生活にいかそう」のコーナーが設定されており、自分たちの生活に即して考えることができるよう工夫している。
- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう、全ての実習題材の手順等の動画が参照できるQRコードを掲載している。動画を活用することで、さらに意欲が高まり、より具体的なイメージを持つことができる。取り上げている実習例全ての動画を視聴でき、一人一人の興味・関心に合わせて活用できる。
- ・ 本県の健康に関する課題の1つに「生活習慣病」があり、中学生の時期は、健康に良い食習慣を身に付ける大切な時期である。自分の取組を記録できる取組表と他教科と関連付けた資料や視覚的に捉えられるグラフや表などの資料が豊富に掲載され、生活習慣の改善について、分かりやすく示されている。

## ○英語

### 2番「東書」について

- ・ 学習指導要領では、小学校での学習の成果が中学校に円滑に接続され、外国語科で育成する資質・能力を生徒が確実に身に付けることができるよう工夫することとしている。中学校の入門期に小学校での学びを確認できるよう、小学校で学んだ単語やコミュニケーション活動について、分かりやすく「小」のマークを示している。

### 9番「開隆堂」について

- ・ 学習内容に親しめるよう、新出表現の導入の場面で、2コマ漫画を用いて、吹き出しの言葉を予想させたり、内容について深く考えさせたりするなど、生徒の興味・関心を高め、様々な見方や考え方ができるよう工夫している。
- ・ 身に付けた技能を活用できるよう、即興的な対話やスピーチの場面を設定している。学習の成果を実感できたとき、生徒は「もっと勉強したい」と学習意欲を持つことができる。

### 15番「三省堂」について

- ・ 学習指導要領では、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにすると示されている。「POINT」コーナーに掲載されている文法事項や表現を、「Drill」コーナーの絵を用いて、繰り返し練習することにより、主体的に活用できる技能として身に付けられるよう工夫している。

### 17番「教出」について

- ・ 学習指導要領では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとめりのある内容を話すことができるようにすると示されている。「Activity Plus」のコーナーで、即興で伝え合う活動やスピーチの場面が設定され、身に付けた技能を活用できる。

### 38番「光村」について

- ・ 即興的なやりとりができるよう、教材の配置を工夫している。学習指導要領では、コミュニケーションにおいては、流れを大切にしながら、伝え合うことが大切であると示されている。即興的なやりとりができる話題を取り上げ、会話を継続させるために必要な表現を確認できるよう、配置を工夫している。

### 61番「啓林館」について

- ・ 小学校で学んだことを活用できるよう、小学校で学んだ単語や表現を入門期に設定している。小学校外国語活動から中学校英語学習への小・中の円滑な接続が求められており、小学校でコミュニケーション活動に慣れ親しんできた子どもたちが、中学校での学習に早く慣れ、十分な言語活動を行うことができるよう、1年生の最初の単元で、小学校で慣れ親しんだ単語やコミュニケーション活動を多く扱うことによって、意欲的にコミュニケーション活動に取り組むことができるよう工夫している。
- ・ 身に付けた知識や技能を活用できるよう、全ての単元の構成を統一している。県学習状況調査の結果から、基礎的・基本的な文法事項の定着が課題として挙げられた。基礎的・基本的な事項の定着を図るためには、学んだことを繰り返し活用することが必要である。見開き1ページで4技能5領域の活動が掲載されており、技能を習得・活用するための単元構成を工夫している。
- ・ 英単語を何度も繰り返し確認できるよう、デジタルコンテンツに接続できるQRコードを掲載している。デジタルコンテンツを活用して、生徒が単語を習得する際、意味も確認できるようになっており、自分が確認したいところだけを確認できるよう工夫している。

## 〇道徳

### 2番「東書」について

- ・ 多くの視点から物事を考えられるよう、全学年で、巻頭に「話し合いの手引き」を掲載している。生徒が、役割演技や体験的な学習を共同的に行うことができるようにしている。他者の教科書でも、役割演技や体験的学習を取り入れているページを掲載しているが、各学年4ページにわたって扱っているのは、東書のみとなっている。

### 17番「教出」について

- ・ 郷土を愛する態度を身に付けられるよう、全学年の教科書の巻末部分で、「都道府県にゆかりのある人物と、その言葉」を掲載している。本県にゆかりのある人物としては、1年生に棟方志功、2年生に川口淳一郎氏、3年生に高橋竹山が掲載されている。郷土にゆかりのある人物の生き方や、言葉に触れることは、郷土を愛する態度を育てることにつながる。

### 38番「光村」について

- ・ 生き方について考えを深められるよう、全学年の巻末に、様々な分野で活躍している人たちの直筆のメッセージを掲載している。直筆のメッセージを読むことにより、生徒本人が自分の生き方はもちろん、人間としての生き方についての考えを深めることができる。
- ・ 小学生の頃よりも豊かな生活経験をもとに考え議論できるよう、補充教材として小学校の道徳の教材を掲載している。1年生には小学校低学年の教材「橋の上のおおかみ」、2年生には、小学校中学年の教材「泣いた赤おに」、3年生には、小学校高学年の教材「手品師」が掲載されている。小学校からの生活経験をもとに、考え、議論することで、道徳的価値の深い理解につながる。

### 116番「日文」について

- ・ いじめ問題に対応する力を身に付けられるよう、全学年で、いじめ防止の知識・技能を学ぶ特設ペ

ージを掲載している。1年生の特設ページでは、「いじめって何？」と題して、いじめの定義などについて理解を深められるようになっている。いじめ防止は、東青地区において、最も力を入れているテーマであり、いじめについて取り上げている教材及び特設ページの数が最多となっている。

- ・ 防災などの現代的な諸課題について学びを深められるよう、全学年で、教材の内容理解を助ける特設ページが随所に設けられている。3年生の特設ページ「自分の命を守るために」では、防災、生活安全など、安全教育に関わる内容を取り上げており、大切な命を守ることについて、生徒が深く考えることができるページとなっている。他にも、いのちの大切さ、情報モラル、環境、伝統・文化、国際理解等、現代的な諸課題を全学年で取り上げている。
- ・ 全学年の目次欄にQRコードが掲載されており、教材に関連した画像や動画の資料を視聴することができる。掲載されている画像の数は日文が最多で、道徳的な考えを深められる工夫がなされている。

## 2 2 4 番「学研」について

- ・ 将来への夢や希望を持てるよう、スポーツに関わる教材を複数時間連続させて配列している。1年生ではイチロー選手とクラブ職人の岸本耕作氏を取り上げている。世界を舞台に活躍したスポーツ選手と、彼らを支えながら活躍する人々を取り上げ、それぞれの生き方や困難に立ち向かう姿などに触れて、自己の生き方を深く見つめられるようになっている。

## 2 3 2 番「廣あかつき」について

- ・ 道徳的価値や人間としての生き方について深く考えられるよう、全学年の教材の最後に、歴史上の偉人や著名人の言葉を掲載している。先人や現代に活躍する人々の一言から、教材の内容を様々な角度から考え、道徳的価値についてより深く理解できるようにしている。2年生ではマザー・テレサについて取り上げた教材の最後に、アンネ・フランクの言葉を掲載している。

## 2 3 3 番「日科」について

- ・ 道徳的価値を理解できるよう、全学年の巻末に、学習指導要領対応表を掲載している。内容項目を文章で記載し、教材名を併記しているところが特長であり、生徒が道徳的価値を理解する工夫がなされている。

### 【質疑応答】

Q 1 現代的な諸課題について、どのように扱われているか。

A 1 各者で取り扱っている。

Q 2 日文では、現代的な諸課題について具体的にどのように扱っているか。

A 2 現代的な諸課題に関する視点や考え方を、特設頁に提示している。

Q 3 日文の道徳ノートはどうか。

A 3 内容面も含め、活用しやすい工夫をしている。

### 【主な協議内容・意見】

○中学校における道徳の教科化に伴って、日文の道徳ノートは授業の一助となった。一年間の学習を蓄積し、振り返られるところも良い点である。

○情報モラルやSOSの発信に関わる内容を学校で扱っているが、道徳との関連によってより深められるので効果的である。

○現代的な諸課題について扱うためにも具体的で分かりやすい教科書が必要である。

○全教科領域でQRコードなど、情報活用に関して、重要性をより感じている。

○QRコードが活用されている。グラフや表は算数・数学に限ったものでなく、取り扱われているところが印象的だった。

- 本県ゆかりの教材、いじめに関する学習など、大人になっても必要な学習を子どもたちと進めていってほしい。
- 他教科との関連を意識させることで、子どもたちの興味・関心を引き出せると感じた。
- 理科、数学において、デジタルコンテンツの活用がとても効果的で分かりやすいという印象を持った。
- デジタルコンテンツの活用が印象的だった。数学では、思考力・判断力・表現力に重点を置くことができ、個別最適化された学習を取り入れることで習熟も図れると考える。
- 東青の子どもたちに生きる力を育成するときに、デジタルコンテンツの活用、現代的な諸課題をどう捉えさせ、思考・判断させるかというのは重要であるし、教科書を選ぶ際には重要な要素となる。技能教科は少ない時数ではあるが、心の醸成という意味で重要な役割を担っていると感じた。
- 各教科の教科書とも思考力・判断力・表現力を育成する工夫が取り入れられている。教科書を使う先生方が使いやすい教科書が採用されればと考える。
- 全ての教科書が学習指導要領の内容を網羅した甲乙つけがたいものだった。主体的・対話的で深い学びを実現させたい。自ら学びに向う授業へ変換していくためには、教科書で学ぶ生徒たちだけでなく、この教科書で教える先生方も学習指導要領でねらう資質・能力の育成を目指した学習を進めていくことが大切である。